

医療現場等からのニーズ発表会における発表概要（課題、ニーズの発表）

「医薬品の容器・包装に関するアンケート調査の結果について」（15 分）

◇ 公益財団法人 富山県新世紀産業機構イノベーション推進センター

当機構では、平成 29 年 12 月 25 日から平成 30 年 1 月 15 日にかけて県内の病院や調剤薬局を対象に医薬品の容器・包装に関するアンケートを実施した。その結果、薬剤師 253 人（215 施設）、看護師 68 人（29 施設）の合計 321 人から回答があった。

（回答率：人員 38.7%（施設 37.4%））

薬剤師や看護師が医薬品の容器・包装のどのような点を重視しているか、どのような点に不満を感じているか等の集計結果を公表するとともに、寄せられた意見の一部を紹介しします。

「医薬品の容器・包装等の課題、ニーズについて」（各 20 分）

--- 前半の部 ---

＜病院薬剤師の立場から＞

◇ 富山県リハビリテーション病院・子ども支援センター 薬剤部長 浜松誠司 先生

医薬品業界では、2010 年頃から一部領域を除いて、抗生剤を筆頭に一時期の新薬ラッシュの波は幾分おさまり、近年では、ジェネリック医薬品ラッシュが進んでおります。

その中で、いかにすれば医療現場や患者さんのニーズに応えられるか、いかにすれば投薬ミスや服薬ミスのない、安全、安心な包装・パッケージを提供できるかに視点を向けることも大きなビジネスチャンスになる傾向にあります。

実際に病院薬剤部での業務を示し、新たな包装・パッケージ開発に繋がられるよう、事例を紹介しします。

＜病院看護師の立場から＞

◇ 高岡市民病院 看護部 副看護部長 萩原まさ実 先生

「薬剤の容器や色や形が似ている」、また「名前が似ている」、「規格が複数ある」ことなどによるインシデントが報告されているため、医薬品を変更する際などには薬剤部・看護部・医療安全室が連携して安全に使用できるよう検討しています。

看護師による現場での医薬品の取扱いや、インシデントの要因となりうる医薬品の容器や包装、そして本院における安全な薬剤使用のための取り組みを中心に紹介します。

----- 質疑応答・意見交換 ----- （25 分）

--- 後半の部 ---

<調剤薬局薬剤師の立場から>

◇ チューリップ調剤株式会社 薬局統括部 統括課長 内田陽一 先生

処方箋に基づき医薬品を調製する調剤薬局からのニーズについて、薬局内におけるエラー発生、保管管理、調製のしやすさの観点からの事例を報告します。

我々薬局薬剤師は、医薬品の消費者である在宅患者の生声を聞き得る立場でもあり、実際に医薬品を使用する在宅現場におけるニーズについて、医薬品使用の容易性、保管管理、廃棄の観点から生きた意見をお届けします。

<医薬品卸業の立場から>

◇ 株式会社ファイネス 富山支店 業務推進部長 内山幸児 先生

我々医薬品卸売業は、法律を遵守し安全で安心な医薬品を供給するという使命を担っている中、過去に起きてはならない偽造医薬品の流通、商品の中抜き問題、誤配送等の事例が発生しています。

卸の目線でこのような事態の改善につながる提案とトレサビリティの観点からバーコード表示明確化、表示に関する統一性を訴える。最後に医療とIoT に関しての話題に触れます。

----- 質疑応答・意見交換 ----- (20 分)